

小児科

1. スタッフ（平成25年4月1日現在）

			(専門)
副科長(教授)	山形 崇倫		神経
外来医長(講師)	森 雅人		神経
病棟医長(講師)	熊谷 秀規		消化器・肝臓
病棟医長(講師)	門田 行史		神経
医員(教授)	杉江 秀夫		神経・代謝 内分泌
	(学内教授) 森本 哲		血液・腫瘍・ 免疫
	(准教授) 河野 由美		新生児
	南 孝臣		循環器
	(講師) 金井 孝裕		腎臓
	矢田ゆかり		新生児
	小高 淳		腎臓
	小池 泰敬		新生児
	(学内講師) 佐藤 智幸		循環器
	(助教) 伊東 岳峰		腎臓
	齋藤 貴志		腎臓
病院助教	佐藤 優子		喘息・ アレルギー
	鈴木 由芽		新生児
	俣野 美雪		新生児
	別井 広幸		
	石井 朋之		神経
	小熊真紀子		
	高田亜希子		循環器
	中山 佐与		
	池田 尚広		神経
	川原 勇太		血液
	下澤 弘憲		新生児
	谷口 周平		新生児
	宮内 彰彦		神経
	岡 健介		循環器
	島村 若通		
	谷口 祐子		
	新島 瞳		
レジデント	13名		

2. 診療科の特徴

当科は小児の総合診療及び多岐にわたる専門診療を担当している。総合診療部の担当する外来のほかに、神経、心臓、肝消化器、腎臓、代謝・内分泌、血液・腫瘍、膠原病、喘息・アレルギー、遺伝、新生児、心理の各専門外来があり、こども医療センター内で他科の小児

専門外来とも連携をとって診療にあたっている。また、救急医療では地域医療機関と連携して、三次救急医療の重要な役割を果たしている。

病棟は急性期病棟、慢性期病棟、周産期センター新生児集中治療部門に別れ、それぞれ38床、38床、36床の計112床のベッド数を有している。必要に応じて小児集中治療室での治療も行う。子どもと家族のニーズに応じた包括的な小児医療と、幅広い分野の専門性の高い検査や治療などの高度な医療を提供している。

・関連領域専門医認定施設

日本小児科学会専門医研修施設
日本小児神経学会専門医研修認定施設
日本人類遺伝学会認定研修施設
日本超音波医学会認定専門医研修施設
日本てんかん学会専門医認定研修施設
日本小児循環器学会専門医修練施設
日本小児血液・がん専門医研修施設
日本周産期・新生児医学会基幹研修施設

・認定医

日本小児科学会小児科専門医 山形 崇倫 他48名
PALS Provider 門田 行史 他13名
日本小児神経学会認定小児神経科専門医
山形 崇倫 他3名
日本小児循環器学会専門医 南 孝臣 他4名
日本医師会認定産業医 南 孝臣 他3名
日本人類遺伝学会認定臨床遺伝専門医
山形 崇倫 他2名
ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター
南 孝臣 他2名
日本周産期・新生児医学会専門医
矢田ゆかり 他1名
日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース
インストラクター 矢田ゆかり 他2名
日本周産期・新生児医学会専門医指導医
矢田ゆかり
日本がん治療認定医機構暫定教育医
郡司 勇治 他1名
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
中村 幸恵 他1名
日本心臓病学会FJCC 白石裕比湖
日本人類遺伝学会認定臨床遺伝指導医
山形 崇倫

日本てんかん学会認定臨床指導医
 山形 崇倫
 日本血液学会指導医
 森本 哲
 日本血液学会専門医
 森本 哲
 日本臨床腎移植学会認定医
 金井 孝裕
 日本腎臓学会専門医
 金井 孝裕
 日本消化管学会 胃腸科認定医
 熊谷 秀規
 日本透析医学会専門医
 金井 孝裕
 日本超音波医学会 超音波専門医
 齋藤 真理
 BLS Provider
 本間 洋子
 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん暫定指導医
 森本 哲

小児科専門医が担当している。年間約10,000人が受診した。月別患者数は急性疾患の流行にも左右されるが、夏季には学校検診の二次精密検査などで外来受診者が増える傾向にある。

2012年、月別患者数：()内は2011年

	1月	2月	3月	4月
合計患者数	805 (848)	805 (685)	968 (839)	742 (690)
	5月	6月	7月	8月
合計患者数	853 (843)	790 (915)	929 (957)	1,244 (1,035)
	9月	10月	11月	12月
合計患者数	933 (859)	1,170 (769)	1,081 (823)	1,011 (850)

2012年年間患者数：()内は2011年

合計患者数 10,331 (10,113)人

3. 診療実績・クリニカルインディケータ

とちぎ子ども医療センターの1年間の小児科総合診療部、専門診療部および入院診療実績について報告する。なお周産期母子総合医療センターのNICUについても一部併記する。

3-1. 外来診療

1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数 3,420人
 再来患者数 38,783人
 外来患者延べ数 42,203人
 紹介率 34.9%

2) 小児科総合診療部外来

医師：桃井 眞里子 (部科長・兼)、山形 崇倫 (兼)、白石 裕比湖 (兼)、杉江 秀夫 (兼)、森本 哲 (兼)、森 雅人 (外来医長・兼)、福田 冬季子 (兼)、柏井 良文 (兼)、熊谷 秀規 (兼)、佐藤 優子 (兼)、小高 淳 (兼)、中村 幸恵 (兼)、小熊 真紀子 (兼)、木村 岳人 (兼)、勝部 奈都子 (兼)、岡元 典子 (兼)

診療実績：

総合診療部では、午前中の外来診療と午後の急患対応を行っている。小児科専門医がそれぞれの専門診療部と兼務で診療を行っている。原則として初診は紹介受診のみとしているが、直接受診される場合も多い。発熱、けいれん、咳、喘鳴、腹痛、頭痛、嘔吐・下痢、などの急性症状に加えて、成長発達上の問題、不定愁訴、不登校、自律神経障害、夜尿症なども多い傾向にある。基礎疾患を有し、各専門外来に通院している小児の急性症状にも対応している。小児科の診療では常に総合的判断を必要とするため、総合診療部で問題を把握し、適切な初期治療、あるいは検査を実施し、必要に応じて、病棟や各専門診療部に振り分ける場合と、しばらく総合診療部外来で診療後、地域かかりつけ医にお戻りする場合がある。全領域にわたる能力を必要とするため、ベテランの

3) 小児神経外来

医師：桃井 眞里子、山形 崇倫、杉江 秀夫、森 雅人、福田 冬季子、門田 行史、長嶋 雅子、池田 尚広、宮内 彰彦

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
799	844	884	952	852	904
7月	8月	9月	10月	11月	12月
927	1,070	874	902	973	963

年間総受診数10,944人

主な診療対象：

複数の疾患を持つ例が多いため、主要疾患の1か月受診者数の概数を記載する。てんかん 400-500人、脳性麻痺や脳炎等による痙性麻痺 100-150人、自閉性障害、知的障害、学習障害や注意欠陥多動性障害350-400人、先天代謝異常症 約20人、染色体異常や中枢神経形成異常 約80人、神経皮膚症候群 20-30人、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの神経筋疾患 30-40人、白質脳症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患 4-5人、チック障害、吃音、頭痛等 40-50人であった。この他、人工呼吸器外来において、23人の在宅人工呼吸器患者を診療している。

4) 遺伝外来

医師：野崎 靖之

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
17	15	17	18	17	26
7月	8月	9月	10月	11月	12月
21	25	19	16	22	20

年間総受診数 233人

主な診療対象：

Down症候群、染色体異常症候群、先天奇形症候群、骨系統疾患。なお、染色体異常、遺伝性疾患は、神経外来に通院している患者も多い。

5) 小児循環器外来

医師：白石 裕比湖、菊池 豊、片岡 功一、
平久保 由香、南 孝臣、佐藤 智幸、高田 亜希子
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
268	251	364	265	296	352
7月	8月	9月	10月	11月	12月
277	374	349	331	259	313

年間総受診数 3,699人

主な診療対象：

心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、完全大血管転位症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、肺動脈閉鎖症などの先天性心疾患の術前と術後、心筋症、不整脈、川崎病、心雑音の精査などを中心に外来診療している。

6) 小児腎臓外来

医師：金井 孝裕、伊東 岳峰、小高 淳、
齋藤 貴志、青柳 順、中島 尚美
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
138	131	135	146	138	127
7月	8月	9月	10月	11月	12月
155	187	131	153	159	165

年間総受診数 1,765人

主な診療対象：

小児特発性ステロイド感受性ネフローゼ症候群、40～50名；IgA腎症、30～40名；膜性増殖性糸球体腎炎、5名；ループス腎炎、5名；巣状糸球体硬化症、5～10名；膜性腎症、3～5名；Alport症候群；5名、膀胱尿管逆流症、15名；その他、低形成腎、嚢胞腎、尿管アジドーシス、慢性腎不全（腎移植後の症例を含む）などを診療している。

外来の特色：

急性血液浄化療法から、維持透析療法・生体腎移植まで、ほぼ小児腎疾患のすべてを守備範囲としている。また、他の小児専門診療科からの依頼を受けて、血漿交換療法や、G-CAPなどの体外循環療法も行っている。院外との連携では県内はもとより、群馬・埼玉・茨城などからも、紹介を受けている。

7) 小児代謝・内分泌外来

医師：杉江 秀夫、福田 冬季子、中山 佐与
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
164	179	189	213	166	152
7月	8月	9月	10月	11月	12月
176	179	141	165	162	147

年間総受診数 2,033人

主な診療対象：

新生児マススクリーニング検査の2次精密検査、先天性代謝異常症（OTC欠損症、脂肪酸代謝異常症、糖原病など）、高コレステロール血症、糖尿病などの代謝性疾患、および成長ホルモン分泌不全性低身長、副腎過形成、甲状腺機能低下症、バセドウ病、思春期早発症などの内分泌疾患が主体である。

また下垂体近傍の腫瘍摘除、あるいは放射線治療後の内分泌障害にも対応している。

8) 小児消化器・肝臓外来

医師：桃谷 孝之、熊谷 秀規、横山 孝二、
木村 岳人
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
67	91	92	120	116	112
7月	8月	9月	10月	11月	12月
130	152	114	149	139	157

年間総受診数 1,439人

検査実績：

A) 消化管系		B) 肝・胆道系	
上部消化管内視鏡検査	13件	腹腔鏡下肝生検	1件
下部消化管内視鏡検査	12件	経皮肝生検	1件
小腸内視鏡検査		DBERC	1件
ダブルバルーン法	9件		
カプセル内視鏡	1件		

DBERC：ダブルバルーン内視鏡下逆行性胆管造影

主な診療対象疾患：

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ペーチュット病）、胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクターピロリ感染症、粘膜脱症候群、若年性ポリープ、機能的胃腸障害（機能的ディスぺプシア、過敏性腸症候群など）、B型・C型ウイルス性肝炎（キャリア、インターフェロン治療、母子感染予防措置）、胆道閉鎖症（術後を含む）、肝内胆汁うっ滞症（Alagille症候群、原発性硬化性胆管炎、新生児肝炎など）、肝硬変（胆道閉鎖症術後、COACH症候群など）、慢性肝炎（自己免疫性肝炎、輸血後肝炎など）、急性肝炎（CMV肝炎、EBV肝炎、TTV肝炎など）、非アルコール性脂肪肝、肥満症、代謝性肝疾患（Wilson病、NICCDなど）、体質性黄疸、胆石症、急性膵炎、異所性膵などの診断や内科的治療を行っている。急性虫垂炎、Hirschsprung病、メッケル憩室、肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、胆道閉鎖症などの外科的疾患、経皮的または腹腔鏡下肝生検、上部・下部消化管内視鏡および小腸内視鏡検査や内視鏡治療に関しては、麻酔科、小児外科、移植外科、消化器内科と連携を取りながら診療を行った。

H24年度から消化器内科の協力と指導のもと、上部・下部消化管内視鏡検査およびダブルバルーン小腸内視鏡検査手技習得のための研修を行っている。

9) 新生児フォローアップ・シナジス外来

医師：河野 由美、矢田 ゆかり、小池 泰敬、

本間 洋子

診療実績：

新生児フォローアップ

1月	2月	3月	4月	5月	6月
182	176	186	174	168	170
7月	8月	9月	10月	11月	12月
181	245	170	175	186	181

年間総受診数 2,194人

シナジス外来

1月	2月	3月	4月	5月	6月
38	38	43	13	—	—
7月	8月	9月	10月	11月	12月
—	—	—	26	31	34

年間総受診数 210人

主な診療対象：

新生児フォローアップ外来は、NICU退院児を対象として、退院後2週間から小学校3年生まで長期フォローアップを行っている。診療内容は成長・発達の評価とともに合併症の治療や精査、必要な養育支援である。気管切開、在宅酸素療法や経管栄養などの在宅医療を必要とする児も多い。外科系診療科、心理面接・心理検査、リハビリテーション部門と連携して包括的な診療を行っている。新生児難聴スクリーニングの精査・フォローも行っている。冬季に行われるRSV重症化予防のために別枠で設置したシナジス外来で名、新生児外来でほぼ同数例にパリビズマブを接種した。

10) 小児血液・腫瘍外来

小児血液外来

医師：森本 哲、柏井 良文、早瀬 朋美、

翁 由紀子、中村 幸恵

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
151	145	140	147	148	136
7月	8月	9月	10月	11月	12月
201	189	147	159	149	158

年間総受診数 1,870人

主な診療対象：

急性リンパ性白血病（ALL）や急性骨髄性白血病（AML）、若年性骨髄単球性白血病、悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病などの血液腫瘍疾患、神経芽細胞腫（NBoma）や腎芽腫、肝芽腫、網膜芽腫、脳腫瘍などの悪性固形腫瘍、ランゲルハンス細胞組織球症（LCH）や血球貪食性リンパ組織球症（HLH）の組織球症、血友病や特発性血小板減少性紫斑病、遺伝性血栓症などの凝固系疾患、再生不良性貧血や遺伝性球状赤血球症、サラセミアなどの赤血球系疾患、慢性良性好中球減少症や重症複合型免疫不全、慢性GVHDなどの白血球・免疫疾

患。

2012年の新規腫瘍性疾患・組織球症は、ALL 8例、AML 2例、悪性リンパ腫 3例、NBoma 3例、腎腫瘍 2例、Ewing肉腫 1例、膝腫瘍 1例、脳腫瘍 3例、HLH 4例であった。

*小児がん経験者の身体的ならびに社会的晩期障害のケアのために、18歳以上の小児がん経験者を対象とした「長期フォローアップ外来」を開始した。

*患者さんとその家族のQOL向上を目指し、医師・看護師・心理士などの多種職による「小児緩和ケアチーム」の活動を開始した。

11) 小児喘息外来／アレルギー外来

医師：佐藤 優子、荒川 洋一、熊谷 秀規

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
41	56	61	39	53	49
7月	8月	9月	10月	11月	12月
66	40	36	79	46	69

年間受診数 635人

主な診療対象疾患：

1. 気管支喘息、乳児喘息、運動誘発喘息

発作重症度としては、中等症および重症持続型の患児が大半を占める。心疾患や神経疾患など、基礎患児をもつ児も多く、他の専門外来と連携をとり診療している。気管支喘息を基礎疾患にもつ患児の術前評価も行っている。

薬物療法として発作重症度にあわせた早期からの吸入ステロイド薬導入や、喘息教育などを行っている。

2. 食物アレルギー、アナフィラキシー、薬物アレルギー、アトピー性皮膚炎、化学物質過敏症など。

近年増加傾向にある食物アレルギー児に対して、原因食物の特定や除去食導入を行い、栄養指導や薬物療法、皮膚検査、食物負荷試験を施行している。

アナフィラキシーに対する急性期の治療と再発予防の指導を行い、緊急時使用薬としてエピペン[®]処方等を行っている。また、食物アレルギーのある児に対して麻疹風疹ワクチンやインフルエンザワクチン接種を随時施行している。

12) 小児免疫外来

医師：森本 哲、川原 勇太

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
49	49	65	52	33	51
7月	8月	9月	10月	11月	12月
42	79	25	43	39	65

年間総受診者数 592人

主な診療対象：

若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデ

ス (SLE)、シェーグレン症候群 (SJS)、若年性皮膚筋炎 (JDM) など。

2012年の主な新規症例は、JIA 5例、SLE 1例、SJS 1例、JDM 1例、新生児ループス 1例であった。

13) 胎児心エコー外来

医師：片岡 功一、白石 裕比湖

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	2	3	7	5	2
7月	8月	9月	10月	11月	12月
3	5	7	7	6	2

年間総受診数 50人

主な診療対象：

胎児の左心低形成症候群、三尖弁閉鎖症、両大血管右室起始症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、多脾症候群、心臓腫瘍、不整脈など。

その他：

院内産科あるいは産科開業医から紹介された、胎児に先天性心疾患や不整脈を持つ妊婦において、胎児心エコー図検査による出生前診断を実施した。

14) 1ヵ月健診

乳児健診は原則当院産科から退院した生後1ヶ月児の健診を行っている。また新生児マスキングの結果を外来で家族に説明している。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
61	75	80	60	83	69
7月	8月	9月	10月	11月	12月
86	76	76	101	72	78

年間総受診数 917人

15) 夜間・休日診療

診療実績：夜間、休日に受診し、小児科医が診療した患者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
326	299	310	318	350	293
7月	8月	9月	10月	11月	12月
291	253	295	365	308	354

年間総数 3,760人

16) 心理検査・心理面接

臨床心理士：星子 真美、氏家 莉沙、村上 瑠璃、田所 まり子

診療実績：

心理検査件数 *総検査数 (うち新生児検査)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
25 (7)	32 (10)	30 (17)	28 (11)	35 (16)	38 (15)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
38 (14)	52 (28)	42 (17)	47 (19)	44 (16)	38 (16)

年間総検査件数 449人

心理面接件数 *総面接数 (うち新規面接)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
100 (4)	86 (2)	105 (5)	88 (5)	95 (5)	96 (7)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
90 (8)	101 (7)	105 (3)	106 (6)	97 (3)	95 (4)

年間総面接件数 1,164人

主な対象：

検査内容は、神経外来からの知能・発達検査、新生児外来からの極低出生体重児のフォローアップのための発達検査の依頼が主であった。心理面接は、心身症、不登校などの適応障害、発達障がい児の二次障害への対応等の相談が多かった。依頼に応じて、入院している患児の心理面のケアにも携わった。患児に対しては、カウンセリング、プレイセラピー、動作法を行っており、家族の相談にも併せてのっている。

3-2. 小児科入院診療

小児科は2A病棟 (急性期病棟)、4A病棟 (慢性期病棟) に分かれており、重症患児については小児集中治療室 (PICU) で集中治療を行っている。また総合周産期母子医療センター (NICU、GCU) で新生児の集中管理を行っている。各病棟の入院患者数を報告する。

2A病棟における超重症児 (者) 受入は776名中57名 (7%) であった。4A病棟では、在宅人工呼吸器療法を必要としている小児で、かつ小児慢性特定疾患研究事業参加者を対象にレスパイト入院を受け付けている。平成24年のレスパイト入院患者数はのべ7名。

1) 月別病棟新入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2A	58	61	66	63	70	61
4A	46	38	40	37	33	32
3A	6	4	7	9	14	1
PICU	12	6	11	11	14	9
計	122	110	124	120	131	103
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2A	64	59	66	81	63	64
4A	38	33	42	37	36	37
3A	8	3	15	6	1	6
PICU	16	15	22	17	13	20
計	126	110	145	141	113	127

総計年間入院患者数 1,472人

2) 入院患者の疾患別内訳 (人数) (重複あり)

	疾患名	病棟			
		2A	4A	PICU	3A
1	先天異常・遺伝疾患				
	先天性奇形症候群	5	3	4	2
2	先天代謝異常症				
3	感染症				
	ウイルス感染症				

	RS ウイルス	39		6	
	インフルエンザ	12		2	
	細菌感染症				
	敗血症・菌血症	4	4		
	化膿性リンパ節炎	5	1		
	蜂窩織炎	5			
	急性中耳炎	6			
	SSSS	3			1
	溶連菌	1			
	マイコプラズマ感染症	13		1	
4	免疫疾患・膠原病				
	血管性紫斑病	5			
	若年性特発性関節炎		4		
	SLE		3		
	その他	3	1		
5	アレルギー性疾患				
	気管支喘息	60			1
	薬剤、食物アレルギー	2			
6	呼吸器疾患				
	急性咽頭炎・扁桃腺炎	14			
	クループ症候群	7		2	
	急性気管支炎	112	6	1	3
	細急性気管支炎	16		5	3
	肺炎	101	4	8	
	無呼吸症候群		2		
	呼吸不全		1	2	
	その他	5	1	2	1
7	神経疾患				
	熱性痙攣	38	4		
	痙攣重積発作	22	7	2	
	てんかん	28	11	2	
	急性脳炎	3	2		
	急性散在性脳脊髄炎	4	2	1	
	インフルエンザ脳症	2	1	2	
	その他の脳症	18	3	4	
	ウイルス性髄膜炎	5	3		
	細菌性髄膜炎	3	2	1	
	急性小脳失調症				
	運動ニューロン疾患		1	1	
	ミトコンドリア異常症	2	1		
	脳腫瘍				
	水頭症	1			1
	筋ジストロフィー	3	3	1	
	ミオパチー				
	重症筋無力症		2		
	筋疾患		3		
	その他	10		1	2
8	精神・心理疾患				
	心身症	3			
	その他		1		
9	循環器疾患				
	先天性心疾患				
	心房中隔欠損		6	5	

	心室中隔欠損		6	6	6
	房室中隔欠損		2	7	2
	ファロー四徴症		8	6	1
	両大血管右室起始症		3	9	
	左心低形成症候群		2	4	
	CoA・大動脈弓離断		1	9	8
	その他	3	2	24	7
	不整脈	2	4	7	
	心不全		3	1	
	川崎病	42	3	1	1
	感染性心内膜炎	1	4		
	心筋炎		1	1	
	原発性肺高血圧		2		
	拡張型心筋症		2		
	心臓カテーテル検査		111		
	その他	2	4	2	
10	消化器疾患				
	急性胃腸炎	34	4		1
	急性虫垂炎	6			2
	腸閉塞	2			
	周期性嘔吐症	16			
	消化管出血				
	胃・十二指腸潰瘍	3		1	
	その他	7			1
	炎症性腸疾患				
	潰瘍性大腸炎	6	3		
	クローン病	4			
	その他	2	1		
	肝疾患		1		
	急性肝炎	8	2		
	ウイルス性病	2	1		
	その他	3			
	胆道疾患				
	急性胆管炎	4	1		1
	その他	4		6	6
	急性膵炎	2			
	その他	7			
11	血液・腫瘍疾患				
	急性リンパ性白血病	3	17	1	
	急性骨髄性白血病	1	7		
	固形腫瘍				
	神経芽細胞腫	1	7	3	1
	Wilms 腫瘍		5	2	2
	Ewing 肉腫	1	4	1	1
	脳腫瘍		8	2	1
	その他			2	6
	悪性リンパ腫				
	再生不良性貧血		2		
	特発性血小板減少性紫斑病	9	7		
	血友病		2		
	血球貪食性リンパ組織球症	5	1		
	組織球性壊死性リンパ節炎	1			
	ランゲルハンス細胞組織球症		2		

	好中球減少症	1	2		
	その他	1	1		
12	腎泌尿器疾患				
	急性腎盂腎炎	29	3		2
	急性糸球体腎炎		1		
	慢性糸球体腎炎	3	1		
	IgA腎症		3		
	ネフローゼ症候群	13	13		1
	紫斑病性腎炎	3	2		
	溶血性尿毒症症候群	1	2	1	
	慢性腎不全	1	1	1	
	その他	3			1
13	代謝・内分泌疾患				
	糖尿病	3	3		
	低身長		1		
	尿崩症				
	先天性副腎過形成				
	有機酸代謝異常症		8		
	その他	8			
14	中毒・事故・外傷				
	被虐待児症候群	1		2	
	薬物誤用	5			
	ALTE	3			
	熱傷	3			
	育児過誤				
	窒息・異物誤飲	1		1	
	その他	2			
15	その他	7	23		

3) 新生児集中治療部 (NICU) の入院実績

年間入院数391人 (再入院8人除く)

出生体重 (BW) 別、在胎週数 (GA) 別入院数および死亡数を示す。人工呼吸症例数は117人 (全入院の29.9%) で、NICU入院中に手術を行った外科症例 (外科転科直後手術例ふくむ) はのべ37人、死亡退院は7人であった。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	1	0	1	0.0
23	1	1	0	100.0
24	4	3	1	75.0
25	4	4	0	100.0
26	5	5	0	100.0
27	2	2	0	100.0
28	3	2	1	66.7
29	3	3	0	100.0
30	7	7	0	100.0
31	6	6	0	100.0
32	17	17	0	100.0
33	20	20	0	100.0
34	33	33	0	100.0
35	27	27	0	100.0
36	26	26	0	100.0
37以上	232	228	4	98.3
計	391	384	7	98.2

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
<500	1	1	0	100.0
<750	9	7	2	77.8
<1,000	9	9	0	100.0
<1,250	8	7	1	87.5
<1,500	18	17	1	94.4
<1,750	17	17	0	100.0
<2,000	40	39	1	97.5
<2,500	89	89	0	100.0
>2,500	200	198	2	99.0
計	391	384	7	98.2

3-3. 主な検査・特殊治療

1) 心臓カテーテル検査

心臓カテーテル検査・治療の総数は120件であった。対象疾患は、心室中隔欠損18件、心房中隔欠損3件、Fallot四徴症/両大血管右室起始症26件、房室中隔欠損症5件、完全大血管転位2件、川崎病4件、動脈管開存症9件、その他 (左心低形成症候群、三尖弁閉鎖、肺動脈閉鎖、単心室など) 53件であった。カテーテル治療53件の内訳は、バルン血管形成術25件、心房中隔裂開術1件、血管コイル塞栓術12件、バルン弁形成術7件、動脈管閉鎖術8件 (ADD2件含む) であった。

2) 腎生検

2012年に、22件の腎生検を行った (開放腎生検を含む)。

3) 造血細胞移植

2012年に造血細胞移植を5回行った。内訳は、ALL 1例 (非血縁骨髄)、AML 1例 (HLA半合致血縁)、脳腫瘍 1例 (自家末梢血)、NBoma 2例 (自家末梢血) であった。

3-4. 小児科カンファレンス

毎週月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の朝に新入院患者の紹介と討議、水曜午後の教授回診で入院患者の病状報告と討議を行った。

小児科における症例検討会 (CC) は毎週木曜日18時からカンファレンス室で入院例を中心に検討した。以下症例検討会のテーマと担当を示す。

日時	テーマ	担当
1月12日	仙腸関節炎を契機に診断された潰瘍性大腸炎の女児例	井上
1月26日	精神症状の増悪にステロイドパルス療法が奏功した診断から1年経過した辺縁系脳炎の1女子例	中山
2月2日	新生児期発症のてんかんと精神運動発達遅滞を有する急性脳症女児の診断と治療	大橋、黒岩、長嶋

2月9日	ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の治療について	伊東、今川
2月22日	くも膜下出血をきたした22q11.2欠失症候群	高田
3月8日	右片麻痺で発症した脳膿瘍の1例	宮内
3月15日	高CPK血症と胆汁うっ滞を伴う8番トリソミーモザイクの女児例	石井
3月22日	急性腎盂腎炎の診断における非造影MRI検査の有用性の検討	青柳、小高
4月12日	川崎病症状を反復した男児例	門田、池田(尚)、古井、大橋
4月26日	Burkitt leukemiaを呈した移植後リンパ増殖性疾患の1例	早瀬、川原、田中、齋藤(洋)
5月10日	発熱に伴って筋力低下と皮疹を繰り返す女児例	伊東、木村、英、田中、古味
5月24日	新生児の術後胆汁うっ滞～問題点と対策～	西村、俣野、谷口(周)、島村、今川
5月31日	肝移植術が必要と考えられる重症心疾患を合併した多脾症候群の1例	岡、佐藤(智)、高田、小林
6月7日	全身性エリテマトーデスに自己免疫性肝炎の合併を疑われている11歳男児	渡部、片岡、山岸
6月14日	Fontan術後に合併した蛋白漏出性胃腸症の1例	古井、佐藤(智)
6月28日	急性腎盂腎炎、敗血症、脱水下におけるNSAIDs内服が原因と考えられた急性腎不全の1例	木村、伊東、英、小森
7月5日	両側顔面神経麻痺の4歳女児例	田中、石井、勝部、菱田
7月12日	汎血球減少を契機に診断された、門脈圧亢進症の1例	足立、小林、古井、川原、早瀬
9月13日	気道感染、頸部痛、両下肢痛を契機に右下肢CRPSを発症した13歳女子	齋藤(貴)、宮内、山岸、黒川
9月27日	低Na血症の診断と治療	池田(尚)、門田
10月11日	痙攣、意識障害、両下肢痛で発症し、高血圧が遷延する急性脳症、末梢神経障害の13歳男児	木村、門田、池田、島村、関根、磯田、糟谷
10月18日	逆流性腎症を併発する後部尿道弁の1例	鈴木(由)、小森

11月1日	軽度脳低温療法を行った2症例	英、原、川原、伊東、宮内、山岸、齋藤(貴)
11月8日	難治性てんかんに対しTRH療法を施行した1例	新島、坂本、村上(明)、宮内、齋藤(貴)
11月22日	1歳0か月時に発症した乳児ネフローゼ症候群の1例	村上(明)、宮内、坂本、新島、齋藤(貴)
11月29日	消化管穿孔 予防的管理についての検討	谷口(周)
12月6日	慢性移植片対宿主病に対する長期ステロイド治療中に胸腰椎圧迫骨折を生じた1例	斎間、八木、田中、山岸、早瀬

4. 来年の目標・事業計画

とちぎ子ども医療センター小児科は、小児科疾患の診療のみならず、子ども医療センター内のあらゆる診療部門との連携により、小児の全ての疾患領域に対して臨床研究に基づく高度な医療を提供する。次年度の目標として、①小児科専門診療部門各領域における小児高度医療の推進、難治性疾患の治療成績の向上、②慢性疾患、重症児の診療における地域医療機関との治療ネットワーク、在宅医療ネットワークの構築、③小児救急医療の役割分担による三次救急医療の充実、④小児科医育成の継続、を掲げる。